

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191500129		
法人名	社会福祉法人 敬愛会		
事業所名	グループホーム しくらめん		
所在地	岐阜県中津川市阿木2811-1		
自己評価作成日	平成30年10月15日	評価結果市町村受理日	平成31年1月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2191500129-00&amp;PrefCd=21&amp;VersionCd=022">http://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2191500129-00&amp;PrefCd=21&amp;VersionCd=022</a>
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成30年11月30日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>利用者様の想いに寄り添い、日々穏やかに過ごして頂けるように考えながら、生活するうえで、得意なことは力を発揮していただき、苦手なことはさり気なくお手伝いしています。安心、安全に表情豊かに暮らしていただきたいと思ひます。良い環境の中で、地域の方々との交流、ご家族の方との関わりを大切に行きたいと思ひ、様々な取り組みをしています。</p>
---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は、阿木川湖畔の小高い位置にある。近隣には民家がないものの、地元の幼稚園や小学生と交流し、地域の敬老会や行事などにも参加している。また、ホームの五平餅会や夏祭りを盛大に行い、地域住民との交流にも積極的に取り組んでいる。母体法人の特別養護老人ホームに隣接しており、よりよい利用者支援や事業運営の方針を共有している。職員は、利用者の残存能力を活かし、得意な力を発揮してもらいながら、安心して穏やかに暮らせるように支援している。職員は、設立当初から勤務している人が多く、異動があっても、法人内に留まっている為、利用者との信頼関係が継続されている。</p>
------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「敬愛の心」「地域に愛され地域とともに」の理念に基づいて職員全員で取り組んでいます。毎月の会議の際レジメに記載し、常に意識するように工夫しています。	理念は、毎月の職員会議で議題に取り上げ、その意義を共有している。家族の協力を得ながら、住み慣れた地域の人々と交流し、利用者が安心して穏やかな生活が送れるように支援の実践をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のボランティアの方が毎月一回工作や手遊び、歌を唄う等で交流をしてくださいます。また、地域の行事(運動会、敬老会、そば打ち交流会)に参加しています。保育園交流会も今年度は初めて実施しました。	小学5年生と交流を継続しており、保育園との交流も、今年度より実現している。また、地域の様々なイベントに出かけたり、五平餅会や夏祭りには、地域の人を招待している。地元のボランティアとは、日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人の夏祭り参加で出し物をしたり、今年度もラン伴参加を予定しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2カ月に1度開催し、今年度は構成員の方が変わり、色々な意見を頂いています。また、身体拘束に関する報告等もしています。	運営推進会議では、異常気象に伴う熱中症対策や、台風による被害状況や対策などを報告している。また、法令改正や身体拘束禁止に関わる対応、ヒヤリハットと事故防止、サービスの評価も検討し、運営に反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市内のグループホーム部会参加、研修会参加等しています。その際に市の担当者から意見をいただいたり、市の介護相談員の受け入れをしています。2カ月に1度の訪問時に利用者の話を聞いておられます。	市の担当者が参加するグループホーム部会とケアマネ部会に参加し、協力関係を築いている。台風被害や感染症の体験を踏まえ、対応策を相談しながら、助言を得ている。市の介護相談員も受け入れている	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在身体拘束はしておりません。玄関ドアの施錠は夜間帯のみとし、日中はしていません。年度初めに研修会、毎月の会議で話し合いをします。事故報告やヒヤリハットの報告もし、職員全員が周知するようにしています。	スピーチロックを含めて、身体拘束をしないケアを実践している。研修会や職員会議でも、その弊害を学び、全職員に周知している。日中は、玄関の施錠はせず、人の出入りを感知するチャイムで、利用者を見守っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	「高齢者虐待防止」の研修会に参加したり、言葉の暴力、無視すること、放置することが虐待にあたると職員全員が注意しながら「虐待防止」に努めています。		

岐阜県 グループホームしくらめん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	計画作成担当者が権利擁護推進員をしています。また今年度は職員全体会で施設長の講習会があり、ほぼ全員が学んでいます。必要性があればその都度話し合いするようにしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にご家族が納得されるように説明をしています。途中であっても不明点、不安があればその都度お話をしています。入院時の対応、入所時に説明しますが再度説明し安心していただける様にしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の来所時に報告、ご意見を伺う様にしています。年に2回の家族会の開催、行事参加を呼びかけ、要望を聴く機会をつくっています。	利用者の意見は、介護相談員から得ている。家族からは、訪問時や、年に2回の家族会の場で聞いている。また、法人全部門を対象に、家族アンケート調査を実施し、意見・要望等を改善につなげている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の部署代表会議で運営会議の報告を受け、GH会議で伝達しています。GH会議で話し合いたした事を、次の会議で協議する事もあります。	職員の意見を聞く会議と、部署会議がある。利用者の状況は全職員で検討し、勤務調整や運営上の改善点等も話し合っている。職員の気づきと能力を活かし、運営に反映させながら、離職者の少ない職場環境作りに取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	特にパート職員の就業体系は個々に希望を聞いています。希望休を聞いて勤務表を作成しています。法人として取り組んでいる「業務評価シート」を正職員、契約職員は行います。向上心に繋がるように担当制にしています(行事、利用者担当)		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日々の業務において改善点や気になることがあればその都度指導している。何故か？どうしたらいいのか？常に意識しながら各自考えながら介助方法を見極めること、方法が適切な対応か？と。会議等でも話をしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホーム部会に参加し、部会の際に情報交換したりしています。また部会研修会に参加するようにし、他のグループホームのスタッフと交流の機会をつくります。他の施設への訪問、交流会もしたいと考えています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の事前面接や入居時にご本人、ご家族の方からの情報を頂き、実際に本人と接していく中で困りごと、得意なこと、不得意なことを職員同士情報交換して対応策をカンファレンスで話し合います。良い関係が築けるように心掛けています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に向けての事前調査の際にある程度の家族の方の困りごと、不安な気持ちを伺いながら、ご本人と家族の方との関係や職員との信頼関係を築ける様にしています。電話やメールで密に連絡を取るよう工夫しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居の際、ご本人の気持ち、ご家族の方の想いを伺い、先ずは何が必要か、どんな方法が良いのか考えながら対応しています。場合によっては家族支援が必要な方もある為、その方法も行う必要があります。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の気持ち、やりがいのある仕事を状態に応じて提供することで喜びを感じただけだと良いと思います。役割を果たす事でご本人の生きがいを見つけておられます。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	必ずしも良好な関係の方ばかりではありませんが入居を機に少しずつ関係の変化があるように思います。電話やメールで連絡を密に取り合いながらご家族の方にお任せしたりこちらで対応しています。行事に参加いただいたりして来所の機会をつくっています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会者、面会時間に制限はありません。家庭に居る時、それ以上に会いに来ることができると楽しみにされている方もあります。少しの時間でも足を運んで下さる方もあります。	家族や親族の訪問もあり、敬老会や母体法人のイベントに出かけ、友人や知人と交流している。神社や寺詣りに出かけた時、家族と受診の帰りに兄弟・親戚宅に立ち寄ることもあり、馴染みの関係を継続している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間で相性の悪い方もありますが職員が間に入ったり席を離したり工夫をしています。職員との関係も1対1での対応を望まれる方もあります。その方とは1対1での時間をつくったり工夫しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転居先が併設施設の特養の方だと散歩を兼ねて面会に行ってみたり、顔を見た時には声をかけたりしています。また、情報を求められる時にはこちらでの様子を報告したりします。家族の方も同様に声をかけたり、かけられたりしています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限り、本人の要望に応じているつもりですが、本人の気持ち以外に病気の事、家族の想いにも目を向ける必要がある事柄もあるので、検討しながらの対応になります。出来ることは可能な限り意向に沿っています。	日々の会話や入浴支援時、就寝前にも利用者の思いを聞くよう心がけている。利用者一人ひとりの思い、やりたいこと、不満、帰宅願望などについて把握し、それらを共有しながら、本人の生きがいににつながるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人の話、ご家族の方からの情報収集からそれまでの生活歴を把握し、ホームでの生活において参考にしています。出来る限り自宅での生活に近いと良いと思います。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人の意向確認、情報収集を行い、自宅での生活でどの様に1日を過ごしていたのか、ホームではどの様に過ごしていただくのか？得意なことは力を発揮していただきながら介助方法を検討しています。体調管理にも努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者のプランに沿ってケア会議、カンファレンスで話し合いながら対応策を考えています。状態に変化がある場合には本人の状況に合わせて対応しています。本人の気持ち、家族の方の想いを伺いケアに反映するように工夫しています。	介護計画は、訪問時や家族会の際に、家族の意向を確認し、利用者の自立を支え、メリハリのある生活が送れるように作成している。ケア会議やカンファレンスでも、職員の意見を聞き、検討や見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の検温、血圧測定、食事量の記録をしています。個人ファイルにはその日の様子観察した事を記録し、体調不良時には家族に連絡を取り、場合によっては受診に繋ぐ事もあります。異常時には職員同士で情報を共有しケアに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の生活の中で、要望される事、行事や個別援助においては職員が計画に入れたり、外出に活かしたりしています。一人一人の想いを叶えるのは難しい時もありますが出来る限り皆さんの気持ちに沿っていければと考えています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの方が毎月来所して下さいます。工作や遊びを教えてください。保育園交流会、地域のそば打ち交流会、敬老会、地区の運動会などにも参加して地域との関わりを大切にしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には家族の方に、場合によっては往診、同行支援による受診になります。職員が気になる事を医師に相談して回答を頂く事もあります。	かかりつけ医は個々に継続し、受診は家族対応としているが、家族の都合がつかない場合は、職員が同行している。利用者のかかりつけ医によっては、往診や看護師の対応がある。急変時には、適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホームには看護師不在ですが、特養の看護師に相談したり、助言を頂く事もあります。実際にみていただき指示を仰ぐ事もあります。訪問看護の看護師にも相談する事もあります。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時の情報、入院中の様子、退院後の注意事項の伝達を職員と家族の方にて行います。看護サマリーをいただいたり、面会、お見舞いに出向いて様子をみながら情報交換します。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合極力ホームで対応することをお話させていただきます。但し、医療的処置が継続して必要な場合、特養や医療付き施設への転居にも応じられることをご家族の方と相談します。	重度化の方針を定め、ホームでの生活が可能ならなまどとしているが、入浴困難や常時医療行為が必要となった場合、家族と関係者で話し合い、医療機関や他施設への移転を選択できるように支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時対応マニュアルを作成しています。急変時対応チャートにて対応できるようにしています。消防署で行う救命講習を受講できるようにしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練の実施で避難経路の確認を行い対策しています。防災頭巾が直ぐに使えるように設置されています。避難勧告や避難指示の際には隣接施設へ避難することとしています。	災害訓練は避難を中心に行い、避難場所は隣接の施設と定めている。今期は、台風による短時間の停電と断水被害を受け、備品の確保や防災対策の見直しについて、運営推進会議でも話し合っている。	法人施設及び事業所は、一般の居住区と離れた場所に立地している。法人組織の編成と共に、各職員が、役割を持って適切な行動ができるよう、マニュアルを見直し、災害時の体制強化を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に思いやりの心、気持ちをもって対応する事を心掛け、プライバシーにも配慮出来る様になっています。申し送りの際にも個人的な事項は小声で、入浴介助は出来る限り同性介助にしています。	利用者一人ひとりの思いに寄り添い、誇りを傷つけない対応と言葉遣いに努めている。また、職員同士の会話であっても、個人を対象にしないように心がけ、常に利用者本位の支援に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様のふとした瞬間の声もあるのでそれを見逃さない様にしています。毎日の日記を少しでも書いていただき、その中にある心の声を拾ったりします。1対1になると意向を話される方もあるのでできるだけ対話の機会をつくっています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事のペース、排泄の間隔、気分等で日々の変化がありますので、職員がそれに気が付き、本人の状態に合わせて介助にあたるようにしています。散歩等で気分転換を図る事もあります。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝、下着を交換、季節に合わせた衣類選び、入浴は夏季には週に3回にするなどして工夫しています。起床時の洗面や整髪、毎食後の口腔ケアの声掛けもしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の食事以外に毎月一回以上は季節に合わせて行事食を利用者様と一緒につくって食べています。おやつ作りも折を見て行います。食事の支度、かた付けはほぼ毎食お手伝いしていただきます。	利用者は、配膳、盛り付け、片づけを手伝っている。定期的にパン食も取り入れ、食前には、誤嚥予防の為に口腔体操を行っている。また、個々のペースでゆっくり食べられるよう、食べる速度を考慮して席決めを行い、楽しい食事時間となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事量や水分摂取の状況を記録しています。またご本人の嚥下状態に合わせて食事の工夫をしています。(刻み食、お粥)箸やスプーンで食べ易い食器選びもしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの声掛け、義歯洗浄、自歯の方については食後ブラッシングを声掛けしています。うがいはご自分で、義歯洗浄は一部介助しています。		



岐阜県 グループホームしくらめん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄のパターンを職員が理解して、トイレ誘導、トイレに座る時間やタイミングをつかむようにしています。日中は殆どの方が布のパンツで過ごしておられます。	トイレでの排泄を基本に支援し、トレーニングパンツから改善した人もあり、日中は、布パンツの利用者が多い。夜間は、こまめに巡回し、排泄パターンに沿って支援をしているが、状態によって変動するので、見直しを検討している。	排泄のタイミングの把握に努め、個々の状態に合ったパッドを選択し、排泄用品の削減と、さらに、利用者の自立度が高まる支援に期待したい。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時に氷水を提供したり、水分摂取を促すなどの工夫をしています。医師の処方薬での排便コントロールもしています。歩行や運動も声掛けして活動量を増やしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴はお好きでない方もありますが、週2回(夏季は週3回)の入浴は実施しています。のんびり入ってゆっくりされる方、一気に済ませる方もおられますが一人一人のペースに合わせています。	入浴日や時間帯は、本人の希望に合わせ、体調も考慮しながら支援している。拒む人には、無理強いせず、促し方を工夫している。個々の入浴習慣に合わせ、自分のペースで楽しめるように支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後の休息、夜間の就寝前等で一人一人に合わせて介助を行います。寝具については自宅で使っておられた物を持参いただいたりの工夫をしています。暗くして休まれる方も、豆電球で休まれる方もあります。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の効能や朝、昼、夕、眠前薬の確認、セット、内服介助、内服チェックは確実にしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ホールのモップ掛け、食事の後片付けの後にコーヒータイム、土曜日曜日の食材切、モヤシのひげ根とり、栗の皮むきなど。その都度出来ることは行っていただきます。苦手な方は違うことを提供します。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外に出るのが好きな方は毎朝職員がゴミ捨てに行くのに同行されたり、プランター栽培の水やりなどの園芸を楽しまれる方もあります。受診の際に家族の方が本人の希望を聞いて連れていって下さる事もあります。個別外出、個別援助も計画し実施します。	日常的に周辺を散歩している。希望に応じて、個別の外出も支援し、買い物や地域行事にも出かけている。年間行事では、日帰り旅行として、マイクロバスで行楽地へ出かけている。家族も、本人の馴染みの場所へ連れ出している。	



岐阜県 グループホームしくらめん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	殆どの方がご自分で買い物に行くことはされませんが、行事や理髪代、飲食に関わる行事においてお金を使用します。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持されている方はあります。手紙が届いても返事を書く方はないので、年賀状や残暑見舞い等で全員が書いたりする機会をつくっています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールの温度管理、明るさ調整、個室の温度管理等で様子をみます。ホールにはテレビを設置していますが食事の時間は音楽をかけています。ソファに座っていただいたり、落ち着いた場所で過ごしておられます。	共用の間であるリビングダイニングは広く、窓越しに四季を感じることができる。キッチンや事務室からも、リビングで寛ぐ利用者の様子を把握することができる。洗面台は、利用者が使いやすい位置で複数設置している。季節感のある作品を飾り、ソファも適所に配置している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席は特に場所を決めていませんが、大体同じ場所に座っておられます。他者の事が気になる方もありますが気の合う方同士でお喋りを楽しむ方もあります。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の方が自宅で使用していた物を持参されたり、本人の使いやすいようにしていただいています。何も置いていない方は殆どいません。	自分の部屋として安らげるように、馴染みの物を持ち込み、消耗品や衣類は、クローゼットに整理整頓して収納でき、安全な空間を確保している。生け花や趣味の作品もあり、ドアの暖簾や表札も個性的である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ベッドの向きを工夫しています。(歩行器使用の方)本人の動線や光の入り方にも配慮した環境整備をしています。危険予測もしながら安全確保に努めています。		